

小倉山通信

平成28年3月18日
No.44

修了式

1・2年生の皆さん、平成27年度が3月18日(本日)を最後に終わりとなります。

皆さんの平成27年度は、どうだったのでしょうか。3月8日の第3期生卒業証書授与式では、3年生が、充実した一年間であった、友人や保護者の皆さんそして先生方に支えられて成長することができた中学校3年間であったと、答辞の仲野谷美晴さんが述べてくれました。

皆さんの中にも、様々な困難なことを抱えた1年間であった、あるいは、友人に支えられて楽しい学級で過ごせて良かった、という人など、その人にとって意味のある一年間だったと思います。

最近、いつも読んでいた本の在庫が手元になくなったので、角館図書館から「明日の子供たち」(有川浩・幻冬舎407ページ)を借りてきました。卒業式の翌日、そして振替休日の月曜日の夜までに一気に読んでしまいました。それほど、私の気持ちをぐいぐいと引きずり込んでいく小説でした。この小説は児童養護施設を舞台にした内容です。児童養護施設は、親の虐待やネグレクト(育児放棄)にあった子どもたちを受け入れる施設です。



この中で、どうして本を読むのか、という件(くだり)があります。女性の施設長が、幼くして親に虐待を受けた小学校2年生くらいの男子に勧めたのが読書でした。その男子が今は高校生になっています。そしてその高校生は施設長に言われた次の言葉を常に思い返して心の中で反芻(はんすう)するのです。

「みんな自分の人生は一回だけなのに、本を読んだら、本の中にいる人の人生もたくさん見せてもらえるでしょう。」

虐待にあった子どもは負の連鎖をして、自分の子どもに再び虐待をするそうです。ところが、虐待にあった三人兄妹が施設を出て結婚するのですが、我が子に虐待をしたのは、一番上のお兄さんだけという話を施設長は高校生に話します。では、なぜ下二人の弟と妹は虐待をしなかったのか。それは施設長の言葉で、下二人の子どもたちは読書をしたが、上の子は読書をしなかった、ということなのです。

本校では、毎朝読書の時間が10分間あります。自分の本を一生懸命に読んでいた生徒が多数です。是非、自分以外の人生、そして自分の師と仰ぐことができる人物と小説の中で出会ってほしいと思います。

修了式後にいただいた自分の通知表に目を通し、自分のよさを伸ばし、課題を克服して、4月からさらに成長することを祈念いたします。

第5回仙北市読書感想文コンクール 入賞作品から

仙北市の標記コンクールで教育長賞と入選した生徒の作文を全文紹介いたします。

仙北市教育長賞(小中学校の部)

「友情の力」

角館中学校 1年 大石 花さん

私は、「あらしのよるに」という本を読みました。この本はとても有名で、読み聞かせなどもよく行われています。私もだいたいのストーリーは知っていたのですが、今回改めて読んでみようと思い、書店で「完全版」というのを手に取りました。

私は、読書がとても好きです。でも、中学校の学級文庫に入っているような本ではなく、子ども向けのやさしい本が好きです。どうしてかという、言葉やストーリーがシンプルで、心にすっと入ってくるような感じがするからです。そして、そんな本を、ゆつくり、じつくり、何回も読みます。

この本は、中学生が読書感想文に書くべき本ではないのかもしれませんが、長めの絵本だからです。でも、私が読書感想文に書いたのは、この本に考えさせられたことがたくさんあるからです。その考えたことを、読書感想文として、書いてみたくなりました。

このお話では、オオカミのガブとヤギのメイは、「友達」という関係です。でも、実際には、「食べる」と「食べられる」の関係なのです。だから、ガブはメイと一緒に行動するうちに、ついメイのことを食べたくなくなってしまいます。それを一生懸命がまんしているガブの姿がユーモラスに描かれていて、とてもおもしろいです。メイも、いつ食べられるかわからないのに、ガブを信じて接しています。このように、二匹はお互いに「食べたい」と思う気持ちと、「こわい」と思う気持ちを、それぞれ隠しています。ガブは、食べないと死んでしまうし、メイは、食べられると死んでしまいます。それに、メイ以外のヤギはガブにとってエサで、ガブ以外のオオカミはメイのことを食べる恐ろしい存在。つまり、二匹のそれぞれの仲間は、相手にとって敵なのです。そして、もしガブが食欲をコントロールできなくなれば、メイは殺されてしまいます。だから、どきどきする瞬間やハラハラする場面がたくさんありました。でも、大変な中で友達になっていることで、秘密の友達としてメイとガブの絆も深まったのだと思います。そして、お互いに信じ合い、「ヤギ」「オオカミ」ではなく、一人の友達として接していたのだと思います。私は犬を飼っています。私もメイとガブのように、「飼い犬」ではなく、家族として接すれば、言葉は通じなくても、もっと仲良くなれると思いました。

メイがオオカミの群れにつかまりそうになる場面があります。そのとき、ガブは命がけで戦い、メイを助けてくれました。でも、そのせいでガブは記憶を失ってしまいます。私はこれを読んで、自分はどうなってもいい、命をかけても守りたいと思うものがあるということが、すごいと思いました。あとがきで筆者もこう語っています。

「人生は、長いのか短いかわけじやない。命をかけてもいいと思えるものを見つけただけでも、生まれた甲斐がある。」(後略)

私も、そんなものを見つけないと思いました。そして、生きていてよかった、と感じられるような瞬間を、たくさんつくりたいと思いました。

いちばん最後の章には、記憶を失い、獯猛(と

うもう) になつてしまったガブと、ずっとガブに会いたいと願っていたメイが描かれています。ガブはメイのこともすっかり忘れてしまっていたので、メイのことを食べようとします。でもメイは必死に今までのことを話します。そして、出会った時に決めた合言葉、「あらしのよるに」がキーワードとなり、やっとガブは記憶を取り戻しました。自分の思いを一生懸命伝えると、相手もきつと分かってくれます。だから、自分が本気で思っていること、伝えたいことを私も一生懸命伝えて、分かり合える人を増やしていきたいと思いました。

私がこの本を読んで一番感じたことは、友情の力はすごい、ということです。たとえ友達が自分にとってエサでも、殺し屋でも、友情の力があれば、やっぱり友達だ、と大事にすることができると思います。私はこれから、いろいろな人に出会おうと思います。だから、オオカミのように怖い人や、ヤギのように弱い人、自分に合わないなと思う人もいるでしょう。人間はみんな違うのだから、しかたがないことだと思います。でも、私はガブのようにやさしく、メイのように勇気を持って、いろいろな人と仲良くなれるように接したいと思いました。

それから、今身近にいる友達も、大切にしたいと思っています。そして、いつまでも仲良く、楽しく過ごせたらいいなと思います。

読んだ本『完全版 あらしの夜に』(講談社)

中学校の部入選

「あきらめなければ夢は叶う」

角館中学校 1年 柏谷 真愛さん

私はディズニーが大好きです。この本に出会ったのは、本屋でマンガを見ていた時です。ちょうどマンガコーナーの近くにあった「ディズニーそうじの神様が教えてくれたこと」という題名が目に入りました。私は絵がかわいいからという理由でいつも本を買っていましたがこの本は絵など関係なく、なぜか題名を見ただけでワクワクしてきました。そうじの神様って誰なんだろう、教えてくれたことってどんなことなんだろう。私は読んでみたくてたまりませんでした。

この本は東京にディズニーランドができる前、作者の洋さんが初めて本場のディズニーランドに行く途中の飛行機で一人の男性に話しかけられた事から始まります。その男性に洋さんは「きみの夢はなんだい？」と聞かれました。しかしそのときちゃんと答えることができませんでした。洋さんはどうすれば夢が叶うのかを聞くと、隣に座っていた女性が、「夢はね、あきらめなければ叶うのよ。」と話したのです。洋さんはディズニーランドに行った時、たばこを捨てたくてどこに捨てればいいか、清掃員に聞くとその人は地面を指したのです。洋さんはちゅうちょしながら落とすと、その人はほうきとチリトリで何もなかったようにきれいにしたのです。そしてその人は、「僕は魔法が使えるんだ。なんてったってここは夢の国だからね。」と洋さんに言いました。洋さんはなぜかこの言葉が心に残りました。それから二年後、東京にディズニーランドができることを知り、そこでどうしても働きたいと思い応募しましたが何回も落ちてしまいます。それでもあきらめず挑戦し続け、やっとの思いで夜間の清掃部門に受かることができました。そして「そうじの神様」と呼ばれているチャック・ボヤージンさんにたくさんのことを学びました。それは「この床に落ちたポップコーンを君たちは食べられるかい？君たちには、子供がポップコーンを落してもちゅうちょなく拾って食べられるぐらい床をきれいにしてほし

いんだ。」ということです。

もしも洋さんがディズニーランドで働きたくても、なかなか受からないからとあきらめていたら、今現在のディズニーランドはきれいじゃなかったかもしれません。私はディズニーランドでゴミが落ちているのを見たことがありません。普通に道を歩いていると必ず一つはゴミが落ちているのに、広いパークでゴミが一つも落ちていないなんてすごいと思いませんか。洋さんが教えてもらいがんばってきたことを次の世代の人達にも伝えてきたからだと思います。

私がこの本を読んで、心に残った言葉が三つあります。

一つ目は「夢はね、あきらめなければ叶うのよ。」です。私の夢は保育士ですが保育士についてまだよくわかりません。保育士になりたいと自信をもっていえるけど保育士になれるとは自信をもっていえません。でもこの言葉を聞いて、私はあきらめなければ夢は叶うのかなと自信がでてきました。それからほとんどときでもあきらめないようにしています。二つ目は「あなたができるすべてのことをしてあげなさい。」です。この言葉を聞いて私は、困っている人がいたら自分でできるすべての事をしてあげられるだろうかと自分のことを見つめ直すことができました。これからは困っている人がいたら、自分ができることをしてあげたいなと思いました。三つ目は「ダメだと思っても、信じる心を共有することで、限界を越えるときがある。」です。校内記録会で私たちのクラスはなわとびで、練習のときそんなにとべなくて無理だなとあきらめていました。でも本番では練習のとき以上にとべて、順位はよくなかったけどうれしかったです。「できる」とみんなが同じ気持ちでがんばれば一人一人のパワーが一つになり大きな力となつて、発揮できることがわかりました。

私はこの本からたくさんを学びました。あきらめないこと、たすけあうこと、力を合わせてがんばることです。これらのことをこれからの生活や勉強で生かしていきたいです。そして夢を叶えるために努力し、保育士になれるようにがんばりたいと思います。あの時本屋に行つてマンガコーナー以外の所を見てよかったと思います。この本を買つて読むことができてうれしいです。これからも鎌田洋さんの本をたくさん読んでみたいです。

この本にであえて本当によかつたと思います。

読んだ本 『ディズニー掃除の神様が教えてくれたこと』 (ソフトバンククリエイティブ)

春季休業中の行事 3/19~4/4

3月

19(土) 東北中学校春季柔道錬成会(岩手県宮武道館~20日)

田沢湖SC中学校女子バレーボール大会~21日

20(日) 春分の日、スプリングコンサート(大曲市民

会館)、部活動休止日

21(月) 振替休日

22(火) 春季休業~4月4日(月)

24(木) 職員会議

25(金) 新入生一日入学(9時~12時)、文部科学大

臣杯全日本少年春季軟式野球大会(大曲仙

北クラブ: 静岡県~28日)

28(月) 大曲仙北高等学校説明会

29(火) 離任式・退任式

4月

1(金) 職員会議

4(月) 職員会議

5(火) 新任式・始業式、入学式準備

6(水) 入学式(10時~)

7(木) 集会指導、オリエンテーション